

弥栄地域協議会と議会との意見交換会記録

令和4年7月26日(火)
18時30分～19時58分
弥栄会館 研修室

【出席議員】 沖田議員、村武議員、川上議員、芦谷議員、永見議員、川神副議長

次第

- 1 開会

- 2 地域協議会会長挨拶

- 3 議長団挨拶

- 4 自己紹介

- 5 意見交換
 - ①産業振興について
 - ②人口減少と弥栄町内にある施設の存続について
 - ③その他

- 6 地域協議会副会長終わりの挨拶

- 7 閉会

【議事の経過】

[18時 30分 開議]

2. 地域協議会会長挨拶

会長

本日は大変お忙しい中、副議長を初め多くの議員にお出かけいただき、厚くお礼申し上げます。

6月定例会議においては、ふるさと体験村の指定管理者として弥栄のみらい創造会議を指定していただき、大変感謝する。現在、グリーンパーク部会が中心となり、来年度からオープンできるよう努力している。引き続きご支援、ご指導賜るようお願いする。

手元に配付している「弥栄地区まちづくり計画、生きる術のあるまち弥栄」を昨年度課題解決特別事業の予算を使わせていただき、誰が見ても理解できるわかりやすい計画書を作成するプロジェクトチームを結成して作成した。幅広い年代の意見も反映するため、弥栄小中学校の生徒やSNSでのアンケートも実施し、意見を反映させた読みやすい計画書となっているので、ご一読いただければ幸いである。また、弥栄のみらい創造会議の令和4年度事業計画のチラシも添付したので、ご覧いただきたい。

この後、産業振興、人口減少、弥栄町内施設存続というテーマについて意見交換させていただく。昨年度同様、弥栄の抱えている地域課題などを議員と共有し、課題解決のための糸口を見つける重要な機会と捉え、各協議会委員が意見をしたためてきているので、対応をよろしく願う。

3. 議長団挨拶

沖田議員

副議長からご挨拶申し上げます。

川神副議長

今日は5人の議員、さらには地元の串崎議員や議会広報広聴委員会委員長を初め、複数の議員が弥栄との意見交換に関心を持って参加させていただいていることをご理解いただきたい。

昨年も大変熱い議論をさせていただいた。本当に感謝申し上げます。今回、なかなか終焉を迎えないコロナ禍で市民の意見をどのように吸い上げるかを考えると、地域課題を率先して解決に当たっていただいている地域協議会の方々と意見交換するのが最善だということで、今年も引き続き開催させていただいた。お忙しい中、そしてこ

の出にくい中、参加していただいたことに改めて感謝したい。6月には紆余曲折あったが指定管理をお願いした。一つの大きな山場を迎えているが、地域づくりは今からが本番である。今日はテーマを定め限られた時間内で議論させていただくが、大変大きな議論になるテーマである。弥栄のみらい創造会議はほかのエリアからも注目を集めている。浜田市の新たな協働のまちづくりにおける、一つの大きな指針になることを期待している。今日は地に足のついた具体的な議論をできればと思う。弥栄のよさや個性を生かしつつ継続的なまちづくりを期待している。どうぞよろしく願います。

4. 自己紹介

沖田議員

皆と意見を交わす議員の自己紹介をさせていただく。

《 以下、議員の自己紹介 》

沖田議員

続いて、地域協議会委員の皆にも一言自己紹介をお願いします。

《 以下、地域協議会委員の自己紹介 》

5. 意見交換

テーマ：①産業振興について

沖田議員

地域協議会の方にあらかじめ質問をいただいております。目を通して。これから30分間ほどこのテーマについて話をしたい。

委員

美味しまね認証について。全国で初めて島根県が国際水準GAPを取得、参加できるようになった。弥栄でもここまではいかないが、上位の美味しまね認証を受けた業者が数件ある。その方のご指導が欲しい。弥栄には農業しかない。水稻の肥料代は上がっているし米価は下がる。そろそろやめたいという人がたくさんいる。すると農地が荒れ、地域が衰退する。弥栄だけの問題ではなく浜田市全体の問題になる。水産もお魚市場もせつかくリニューアルしたのに魚がとれない。しかもコロナ禍。浜田市に残っている地域資源をもう少し掘り下げて、皆が前向きに就業できるような産業が欲しい。

補助金ではだめなのである。その農産物を高く買ってもらえるような助言がいただきたい。

委員

議員の中には農家の方もおられると思う。今年の農協の米買い取り価格が幾らだったか覚えている方はいるか。

永見議員

私も農業でコシヒカリを栽培している。一般米の買い取り価格が

委員

確か4,900円だったと記憶している。販売謝礼金はこの中には入っていない。

農協の買い取り価格、弥栄で5,800円。これは九州の業者が弥栄の米が欲しいとのことで、浜田市のほかの地域より700円少し高く買い上げてもらっている。弥栄にはほんき村という米屋が直接農家から買い取っている。これが5700円。しかし、実は再生産ができるレベルが大体6100円から6400円と言われている。この300円の差は中山間地域直接支払制度、のり面で草刈りするとそれによって補助金が出るのだが、その辺も加味して6100円から6400円という数字が弾き出されている。これは去年までの話。今年は6月1日から農機具が値上がりし、化成肥料が値上がりし、燃料が値上がりしてコストが上がっている。買い取り価格にはあまり根拠がないように我々は思う。逆に農家は希望小売価格をつけられない。実際幾らコストがかかろうが、買い取るほうが値段を決めている。かといって安いから売らないわけにいかないで。一次産業者は安かろうが売らねばならない。

先般、浜田市のプレミアム付はまだ応援チケットが出たが、これは飲食店や販売店などに対してはメリットがあったが、生産者にとっては全くメリットにならない。

この秋、コストを下回る買い取り価格が提示されると、農業生産法人で何千という米を扱っているところ、あるいは年金で細々自分の田を荒らさぬようにつくっている人などにとっては、米価が下がると痛い。弥栄で平均6反の田をつくっていると言われている。大体1反で450キロの米ができる。それは10万円の収入になる。年金で細々やっている人にとっては、それほど安いならもうやっつけられない。すると弥栄の農地荒廃に拍車がかかる。米価がコストを割ったとき、何とか市に補償してもらえないか。

沖田議員
永見議員

まず美味しまね認証についてから。

農林水産省によって国際水準のガイドラインに準拠していることが確認されたものが、美味しまね認証を受けている。認証を受けた業者がつくった製品については、美味しまね認証ゴールドという形で指定されており、地元産品にもそういうシールが貼られた品が出ている。美味しまね認証を皆に受けていただき、少しでも国際水準に近づける形で改めていけば、経営がうまくいくのでは。

販路については支援センターでもいろいろと取り組みを検討され

ていると聞いているので、情報を持ち帰って協議を重ねて販路拡大にもつなげていけたらと思っている。

金城ではピオーネとシャインマスカットの栽培者が多い。私もまちづくりの一環としてJAのハウスを2棟借り、シャインマスカットプロジェクトチームを立ち上げ、23人で生産している。今年が4年目になるが今年から何とか販売できる感覚でいる。これをまちづくりの一つの手法として取り組めたら。ピオーネについてはよくご存じだと思う。いろいろさせていただいている。

川上議員

私も農業をやっているのでよくわかるのだが、中山間地特別支払制度、要するに日本型の特別支払制度を活用している。この二つの制度は非常に大事で、この制度がある限り草刈りせねばならないとか、田を維持しなければならないなど条件はつくが、反当たり幾らという形で出てくる。これを活用しているが足りないと言われていたので、これをしっかり活用し、なおかつ米価を確保するためには直接販売が一番よいかと思う。奥島根弥栄米として広島や東京に出されているが、それをもう少し増やしていただく。増やす方法を行政と一緒に検討する。また、必要であれば海外へ出していく必要があるだろう。ぱっと浮かぶのはシンガポール。シンガポールは今米価が高くなっている。そういう情報を収集して、手厚くやる方法を皆で考えないといけない。

委員

美味しまね認証の審査員を長くやっているので県下の様子がよくわかるのだが、どうしても東部がすごく頑張っている。国内の米価については衰退産業となりつつあるが、違うものに転換するよう指導するところがない。農協も来年4月からは廃止される。どこへ相談に行けばよいか農家も迷われると思う。そういったところに市が力を入れて、指導員を育てて、ぜひ指導していただきたい。美味しまね認証もその事業所だけで対応するのは大変である。

もう1点、肥育センターが県内に5か所ある。3か所は町長なりがJAにやめないでとお願いに行っているが、浜田市と安来市はそういう対応は全然されないのか。

川上議員

浜田市の対応がまずいと。

委員

対応しないのか、と。

川上議員

私どもも、まだそこに手を伸ばしてないのでなかなかお答えしにくいのだが、その前の段階の指導者について。浜田市は農林業支援

センターがある。このメンバーがなかなか増えない。プロがないのが実情である。それについては以前から、しっかり力を入れるよう言っており、一昨年やっと動き出した。まだ2年目なので、もう少し力を入れていただくよう我々からも働きかけなければならない。私どもでは執行ができないので、意見を申し上げることは約束しておきたい。

委員

奥島根弥栄米の話が出ているが、実際、頑張ってもらっている。米に限らず酒も、販路も考えてもらってはいるが、弥栄で生産される米の、奥島根弥栄に流れる数量は限られている。その中で生産者に、どのように潤いを得させてもらえるかというところで、奥島根にお願いするにしても、一朝一夕で米が売れるわけでもなく、そうなるとう米の買入れ価格も知れたものになる。農家は経営がどんどん苦しくなるというのが実情だろう。耕作放棄地を少なくするためにも、圃場整備事業が一方では進んでいるが、それに乗らない田を見捨てるわけにもいかない。できるだけ多くの、法人以外の個人農家にも頑張ってもらわないと農地は守れない。採算が合わないとやめる農家がどんどん出てくるので、それだけでも救済してほしいと思い、今回の意見を出させてもらった。

川上議員

狭い田を活用する方法をお互い検討しなければならない。これについては産業建設委員会が、農林畜産業の中でも農業に目を向けて数名にご意見を伺い、それを反映することを考えたいと思っている。これから進めていくのでご理解いただきたい。

沖田議員

ほかにご意見は。議員からでも。

川上議員

産業建設委員会は今年、水産業、農林業、その他とし、各業界の数名からご意見を伺い、それを反映する方策を検討しようとしている。現在、水産業についてはご意見を伺った。これから農業について意見を伺いたいと思っている。たくさんの方には難しいが、3名、あるいは3団体くらいからお聴きしたい。大きなところではなく小さい声を聴くと細かい意見が出てくるので、それを拾い上げて方策をつくることを検討し、執行部に提言できたらよいと考えている。先ほど言われた件もぜひ入れていきたい。どうしても中山間地域の方は遊休農地を活用する方法、遊休地をつくらない方法、農地を放棄することをやめる方法が必要だと思っている。先般、青木先生に出会ったが、中山間地域の問題が非常に大切だと言われている。皆に

委員

意見を上げていただき、それを何とか検討ラインに乗せていきたい。

小さい子が言ったのだが、「お米がそれだけ余るならどうして給食で食べないの」と言っていた。弥栄はほぼ米飯なので問題ないと思うが、学校給食全体でパンの使用量がどのくらいあるか。浜田市内はかなり多かった。もう一つ、国産小麦以外の小麦は農薬残留が非常に多い。我々が知っている食の世界では、国産小麦以外は食べないほうがよい。日本は規制がすごく甘いことはクローズアップされない。学校給食の安全性は確保されているとは思いますが、例えば浜田市の米消費率など、足元がどうなのか。ふだんの食生活、健康管理からでも、お米を食べるよさを推進していったらどうか。

沖田議員

私は給食献立調整会の役員をやっている。今の学校給食は米のほうが圧倒的に多い。パンの日は月に1、2日程度。私は昭和49年生まれで、小学生の頃はほとんどパン給食だった。

村武議員

私も子どもたちの食の安全は非常に大切だと考える。浜田市の学校給食においては地元食材を使う事例がかなり増えている。何%かはすぐには出てこないが、地元食材の使用は市も推進している。

農水省は現在、オーガニックビレッジ宣言を推進している。浜田市においても有機農業や無農薬などを推進していきたいと執行部も考えており、研究を進めている。私は地元の有機野菜や有機米を学校給食に使ってほしいと個人的に思う。そのためには量を確保しなければいけないので、そこは今後も研究していきたい。

川上議員

先ほども言ったように産業建設委員会では、水産業者と農業者に意見を伺っている。先般は水産業者からの意見で、魚食が進んでないというのがあった。魚食が進めば浜田で獲れた魚を食べてもらえる。結局、米食の衰退と同じである。これは議会だけでなく市として、地域として皆で一緒に進めていけたらと考える。

沖田議員

話が尽きないところだが、このテーマについてはここで終わらせていただきたい。

テーマ：②人口減少と弥栄町内にある施設の存続について

沖田議員

事前に質問をいただいているので、発言をお願いします。

委員

弥栄のみらい創造会議では9月に取りまとめができると思うが、弥栄に必ず残しておかねばならない施設を町民に聞いてもらうようお願いしている。施設がなくなった場合を想定して考えてほしいと言

っている。今一番出ているのが診療所、次に薬局、それから消防署、ガソリンスタンド、ほかには小学校・保育所などがあるが、こういったものが出ている。人口減少となるとやはり縮小、ガソリンスタンドのときもいろいろ騒がれたが。ライフラインあるいは命をつなげるための施設として、人口が減っても残すべきは残さねばならない。弥栄ではJAが合併するとか、Aコープ大丈夫かとか、ガソリンスタンドの次に、次々と波が襲ってきている。予防線を張らねばならない。我々住民も、何を重視しなくてはいけないかを整理しておかないと、生活できなくなるのではと危惧している。

我々の意見も大事だが、まずそういう話題が出るのは非常に早いもので、こちらが議論する間もなく住民に下ろされるケースが非常に多いのでとても心配している。恐らく行政側から示されることは議会にも必ず報告や相談等があると思う。議員がこの問題に対してどのような考え方を持っているか、ぜひ聞きたい。

今、協働のまちづくりが非常に盛んに言われている。いろいろな垣根を超えてやらなくてはいけないことは十分理解している。そう考えると、果たして行政も今のような枠にはまったやり方でよいのか。例えば消防・救急。人口減少が起きたとき、弥栄が三隅と合併するような話が出た。そういうことよりも、ほかに代替がないのか。例えば弥栄から救急で30分で行ったケースは恐らくない。30分以内に行かないと命は助けられないと言われているが、通常の救急でさえ30分で行ったケースは恐らくないのでは。人口が少ないところでより安心して暮らせるために、市内だとまだ近いし、ほかにも交通手段があるかもしれないが、周辺地域にとって救急は命綱である。するところだけは絶対になくさないでほしい。しかし人口が減るから消防署だけでそこを切り盛りするのは大変だということも生じるかもしれないが、それなら消防署にもほかの仕事の手伝いというか、まちづくりのための見回り機能などをつけるような、無理だとは思いますがそういう違う発想はできないのか。議員はどのように考えているか聞いてみたい。

沖田議員
永見議員

消防については永見議員が詳しい。

私も金城の消防団員をやっている。弥栄の場合、団員数がかなり減っているので、隊単位の活動がなかなかしにくいため、弥栄は三隅と一緒に西部方面隊という形で形成している。また浜田は全

てを含めて中部方面隊、金城は旭と一緒に東部方面隊という組織をつくっている。これは消防署の配置などの問題ではなく、救急対応を十分にやらなければならないため、人口の多い少ないは問題ではない。年に4回程度、消防のあり方検討会を開いている。その中で、どういう形で各地区の活動をすべきか、事前に協議させていただいている。今の消防団長は弥栄出身である。その方のもとで協議している。消防署や救急の廃止といったことは現段階、一切話題にはない。

委員

弥栄には生活面、防災面において十分とは言えないが恵まれた施設を置いてもらっている。これらの施設は弥栄で生きていくために最低限必要なものだと思っている。本当になくなるとは困る。JAは既に来年3月から縮小するとのことで大変不便になるが、市の関係で消防の出張署や小中学校関係があるが、これから人口が減少し高齢化が進み、廃止・統合などが既に課題に上がっているのではと不安に思っている。そうなる前に行政の上の方だけで話すばかりではなく、しっかり住民の声を聴いて、住民の声を無視しないでいただきたい。周りから見れば弥栄は不便に見えるだろう。施設を廃止するなら山間部からなどといった考えにならないよう、どうぞよろしく願います。

川上議員

弥栄にはたくさん施設がある。そのうち診療所については大麻、弥栄、波佐、雲城、旭と五つが連携している。これは浜田市の過疎地域持続的発展計画の中でも、医療確保として診療所は休日診療所も含めて、国民健康保険診療所の医療設備と医療体制の充実を図ると書かれている。市長が確保しようと動いている。これまで市長がみずから動くことはなかったが、みずから足を運んでお願いされているので何とかかなると思う。

診療所をなくすという方向性は聞いてない。逆に、どのように充実させるかを今計画されていると思う。弥栄や波佐は時間が減った。これは医師不足のためなのでご理解いただきたい。議会としても執行部に申し述べているので、何とか補填して充実していただけている。

その他施設もたくさんある。例えば公園。使っていない部分は何とか民間に管理していただくなどして、地域で活用していただきたい。農産物加工施設についてもJAが使っているが、これも地域の方々

と一緒に。JAはそのうち弥栄からなくなる。そうなるとうしても地域で一緒にやらねばならない。それも協議会でしっかり協議いただいて、どのようにしたい、このようにしたら一番よいという案を出していただくのが必要である。

消防についても先ほど永見議員が言われたように動いているので、ご理解いただきたい。最終的に施設については、利用できるものは極力利用しよう。新しくつくるのは難しいので、あいている部屋があるなら何かに使おうという形で、使い道を地域で検討いただくのが大事だと思う。活用法がないなら廃止となるだろうから、活用するのが大事だろう。それを念頭においてご検討いただきたい。

委員

診療所の先生が2名退職された。1名はそのまま残って診療に当たっていただいているが、医師が不足している。担当課では一生懸命努力していただいているだろうが、議員もぜひ医師確保をお願いする。

芦谷議員

新聞にも出たが、診療所の先生が25年間頑張ってこられて、高血圧・糖尿病が多かったのだが県平均の1.8倍から1.27倍に下がった。先生のおかげで町民が元気になった。したがって健康づくりの先進例として先生に残っていただいて、退職されればそれにかわる人を。先生と診療所と地域と一緒に、町民の元気づくりをする運動は必要と思う。

川神副議長

国保診療所が今後どうなるか。さまざまな課題は抱えているが衰退させることは全く考えていない。ドクターの確保が一番大きな問題で、地域枠やさまざまな形で医療人を育成するための奨学金などの応援体制を組んでいる。しかし、往々にして若い職員は臨床医というさまざまな専門に行って先端医療技術を学びたいということでどうしてもそちらへ行く。我々が欲しいのは地域医療の総合医である。飛び抜けたスペシャリストではないが総合的に判断できる方が、国内には一定数いらっしゃる。そういった方が地域へ入ってやりたいという。そういう方に浜田市から一生懸命アプローチしている。関係人口を増やしながらかドクターを引き込もうという戦略も考えている。いずれにせよ国保診療所を中心に中山間地医療を確立させなければ、皆の安心につながらないことは重々承知している。いろいろな手を使いながら現実的に着実にやっていきたい。大麻診療所は周辺ドクターが時間限定で応援に行こうという話も出ている。つま

- 川上議員 　　り医師の中で連携しながら地域医療を守っている。議会も執行部と一緒にになって命を守ることに全力を尽くしたい。
- 川上議員 　　たくさん施設がある。施設を活用する方法をぜひ地域協議会、弥栄みらい創造会議で協議いただきたい。案があれば出していただいで一緒に検討させていただきたい。よろしく願います。
- 沖田議員 　　ほかに意見がなければ、その他に移る。

テーマ：③その他

- 沖田議員 　　その他について、地域協議会から願います。
- 委員 　　道路についてと住宅について質問したい。道路脇の雑木がかなり大きくなり、それを避けるために大型トラックがはみ出して結構危ないところが多々ある。業者が草刈りをしているが大きな木までは切ってくれない。弥栄の除雪が必要な部分、特に心配するのが通学路。通学路自体はしっかり除雪できているが、県道・市道の除雪が曖昧で、でこぼこしている。車がそれを避けて走るすぐそばが通学路で、危ないと思う。除雪がどこまで徹底されているかを誰に相談したらよいかわからない。除雪が不十分なときに見に来てくれる人がいるのか。
- 委員 　　住宅について。弥栄では地域定住住宅というのがある。私もそこに住んでいる。5軒中2軒が、3年くらい前からずっと空き家状態。誰も入らないので工務店に聞いたところ、補修が必要だが補修費が出ないらしい。定住促進のためには住宅の確保が必要だと思うが、補修するつもりは全くなくてこのまま放置するのか疑問に思っている。また、その真向かいである農業研修棟、農業研修生のための住宅としてあけてあるのだが、私も21年前に使っていた。その研修棟は農業研修期間1年で出ていかねばならない縛りがあり、農業研修生にとっても使いづらい、入りづらいのではないか。そもそも1年で農地と農業技術を身につけて、新たな家を見つけて土地も探してという設定に無理があるのではと思っている。むしろ一般の賃貸住宅にして入居・転居に縛りをなくしたほうが、農業研修生としても使いやすいのではと思うが、いかがか。
- 委員 　　県道の草刈りのお願いだが、こちらから出るときに野坂の集会所の手前まで、出るときはよいが帰りが、草が道路の3分の1まで覆っている。車に当たりそうなのでセンターラインを越えて運転するこ

川上議員

とが多い。ちょうどカーブで対向車が来てひやりとしたこともある。いつ刈るのか待っている。事故が起きないうちに刈ってほしい。

県道なので県に言わねばならないが、直接県に言うのは難しいので、弥栄支所の産業建設課に、気づいた方がすぐ言う。事故が起きたらどうするのかという形で言えばよい。今日こうして意見が出たので、これについてはすぐされると思う。

木が大変という話。支障木という形で県も処理されていると思う。これも同じ。同時に浜田市も市道については予算を持っているので、これも早くしろと言われたほうがよい。草を刈るだけが安全ではない。草は見栄え。結局その上にある木が倒れたら危ないし、その木によって視野が塞がれても困る。しっかり住民から市に言ったほうがよい。

雪についてはどこも同じ状況だと思う。県道と市道との境目。誰がするのかという話。市道と私道との境目は誰がやるのか。これについても事前に会議がある。そこに市の担当が出るのでしっかり述べていただくことが必要だと思う。現在なかなか歩道・通路に予算はつかないが、危険を除外するためには必要だろう。周辺地域の予算が足りない状況なのだろう。今後の課題として取り組んでいく。

委員

草刈りの件。5月から10月まで毎月草刈りしている。県道を。そういう状態で集落を一生懸命守っているのだが、これがいずれできなくなる。そういうところがこれから市内にたくさん出ると思う。それも市の大きな問題の一つではないかと思う。地元にいる者も、あれは市がやってくれる、県がやってくれるではなく、地元の者も力があれば少しでも出して維持していく気持ちも大事だと思う。もちろん市の力もないととてもではない。そういうことを一緒に考えていけばよいと思うのでよろしく願います。

沖田議員

弥栄の草刈り事情を初めて聞いて愕然とした。うちの地区でも今まで草刈りに出てくれていた方が亡くなったりして、一人また一人と草刈り人員が減っていることをひしひしと感じる。弥栄は草刈り問題の先進地だと思う。何が一番必要だと感じるか。

委員

予算が必要。高齢でできなくなれば元気な人にお金を出してでもお願いできるような組織が必要かと思う。若い方もボランティアで出ているが、何もかも月に1回ボランティアでとなると、500円でもよいからいただけるとモチベーションが上がるという意見もある。

我々世代は当然のように草刈りしているが、若い方にはそういう考えは少し難しいのだろう。例えば草刈りだけをする組織があってもよいかと思う。

川上議員

道路は道路の管理者責任、川は川の管理者責任として草刈りをする、生えている木を切るのだが、そこにどうしても予算がついて回る。我々議会としては出してほしい思いでいるが、全てが全てそうはならない。私は十数年前に地域協議会に、その前はまちづくり委員会にいた。皆、現在年金をもらっている。年金は自分が働いたことに対する代価だろうか。できれば月に1回、週に1回でも結構なので、年金をもらえる方は道の草刈りをしていただけないかという思いがある。今は70歳超えたので逆に私が言われるが。どこも一緒、お互い協力していかねばならないのは事実なので、草刈りについては市が幾らか補助している。県道については県が維持管理者にお願いしている。それで足りない分は、ここが足りないと声を出していただきたい。それが大事。やってくれるからよいとはならない。声を上げて、本当に困っているのだと。

7. 閉会

沖田議員

議題が尽きないところではあるが、予定時間が迫ってきたので大変名残惜しいが間もなく終了させていただく。最後に地域協議会副会長から閉会のご挨拶をいただきたい。

副会長

貴重なご意見をいただき、有意義な話し合いができたと思う。議員と直接話すような機会がこれまでなかった。大変ありがたい。各地域の実情を直接議員に話せるということで、地域協議会としても頑張って盛り上げていく気持ちになれた。感謝する。

沖田議員

今日皆さんからいただいた意見は全員協議会の場で、議員全員に共有したい。以上をもって弥栄地域協議会と議会との意見交換会を閉会する。

[19時 58分 閉議]